

かけだしの頃

今だから話せるゲンバの失敗

土木工事に携わるものは、自然を決して侮ってはいけない。そう痛感したのは、入社九年目、二十九歳のときに現場代理人を務めた、ある河川工事での出来事でした。

それは大型河川にハーフコーン式の魚道を造るという工事で、資材の搬入・搬出路を確保するため、魚道を設置する対岸に向かって川を横断する仮設道路を築造することになりました。

まず、仮排水用に長さ十二m、直径一・二mのコルゲート管二十本を川の中に敷設し、その上に盛り土をして仮設道路を造りました。続いて、掘削する場所の上流部に高さ一・二mの築堤を設け、仮締切り完了後、魚道の掘削を開始しました。

水位から五mくらいまで斜めに掘り下げするため、毎日天気予報をチェックし、川の上流にあるダム放流などにも注意しながら施工を進めていきました。

災害に見舞われたのは、掘削が完了し、コンクリートを打つ段階に入ろうとすることです。夕方四時頃、重機の片付けを行っていたところ、突然集中豪雨となり、またたく間に川の水位が上がってきたのです。

築堤が崩壊して、掘削が完了した箇所がすべて押し流されるおそれが出てきたため、再度、築堤部の盛り土を行ったのですが、九時頃には雨もやみ、仮排水用コルゲート管は十分機能しており、仮設道路の崩壊はないものと考え現場を引き上げました。

ところが、翌朝現場に来てみると、なんと仮設道路が跡形もなくなっているではありませんか。大量の流木によってコルゲート管ごとバラバラになっていたのです。川の水を流木が重なり合って堰き止め、滝のようになっているのを見て愕然としました。そもそも渇水時期の工事であり、このようなことになるとは思いもありません。

成友興業株式会社
多摩西事業所 工事長

守重 鶴夫

昭和53(1978)年に株式会社島田組入社。
平成15(2003)年に株式会社ウイルコン入社。平成19(2007)年、合併により成友興業株式会社に入社、現在に至る。



した。「川は時に豹変し、休むことを知らない」まざまざと自然の脅威を見せつけられた気がしました。

しかし、集中豪雨の中、盛り土をして堤防を造ったことで掘削した魚道が埋まらずに済み、人災もなかったのが不幸中の幸いでした。「ここから自分たちの腕の見せ所」と、皆で気力を振り絞り、バラバラになったコルゲート管を組み直し、一週間で復旧させることができました。

当初から、素晴らしい工事にしようという意識に満ち溢れた現場だったのですが、このアクシデントをきっかけに、関係者全員の意識、行動が一段と向上し、安全・品質・工程管理の徹底につながりました。

自然現象、自然の力には計り知れないものがあります。土木屋として、自然を侮ってはいけない。常に謙虚でなければならぬと肝に銘じた出来事です。